

A close-up photograph of several ripe peaches with a reddish-orange hue, resting on a red and white patterned cloth. The peaches are the central focus, with their soft, fuzzy texture clearly visible. The background is slightly blurred, showing more peaches and the patterned cloth.

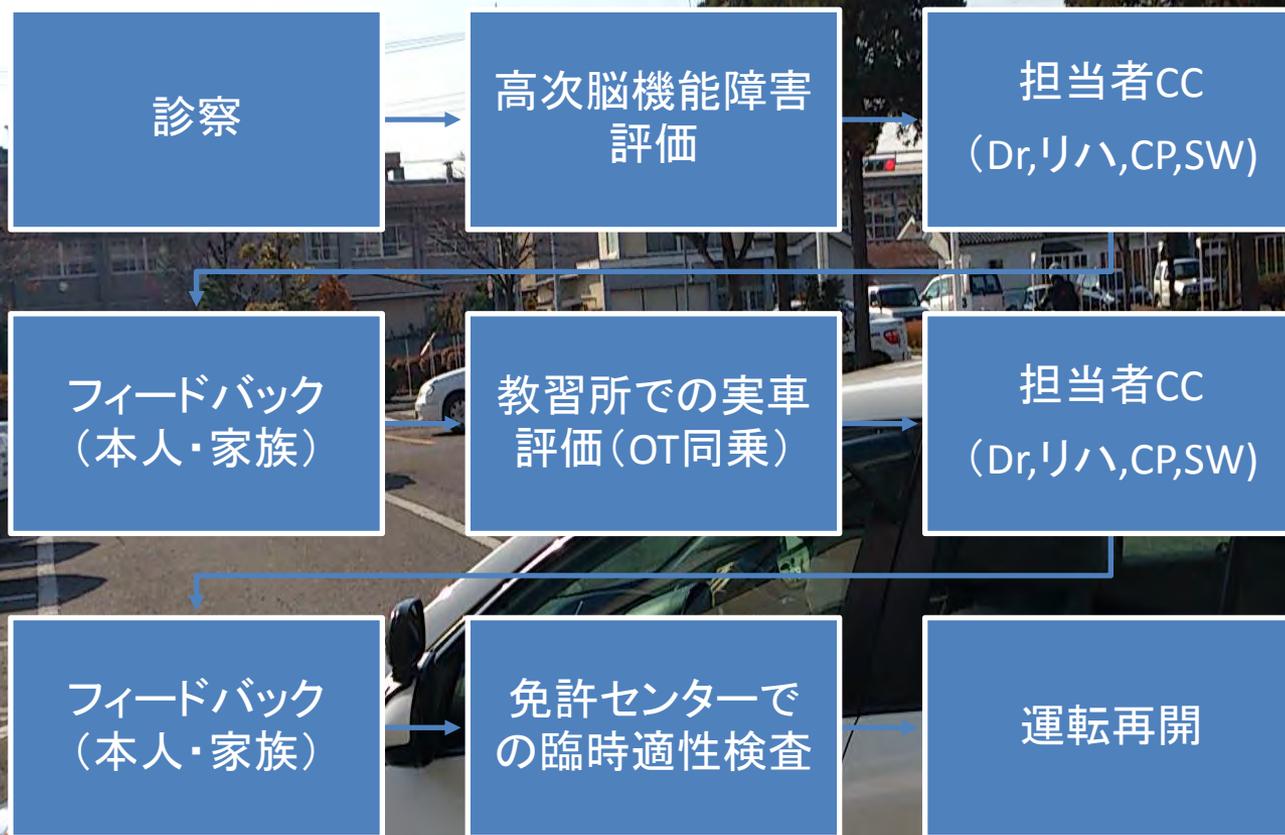
移動支援について

当事者の移動の現状

- 通院や外出の介助等は、大半を家族が担い、自動車で送迎しているのが現状である（家族の理解や、送迎に費やす時間の確保が必要）。
- 県民の移動手段の主体は自家用車。
- 公共交通手段、市町村独自の取り組みもあるが、路線や運行本数も限られている。

移動手段の獲得に向けた支援が、その後の社会生活を大きく左右する。

自動車運転再開に向けて



網羅的スクリーング

- 注意・記憶 (TMT CAT WMS-R RBMT 三宅式 Rey図形)
- 知覚・認知 (BIT WAIS レーブン)
- 遂行機能 (BADS WCST)
- 言語 (SLTA)
- 病識 (PCRS 健忘チェックリスト)

運転技術の再獲得に必要な評価

- 免許の有無、種別、運転歴
- 服薬状況等の確認
- 使用する身体部位、高次脳機能
- 車への乗降能力、車いすや杖の車載能力
- 運転能力
- ハンドル・アクセル・ブレーキ・計器の操作
- 運転補助装置の必要性
- 問題行動の予測、交通法規遵守の可否

適性検査や実際の運転に向けた練習にあたり、自動車関連動作評価を実施する。

公共交通機関の利用に向けて

診察

高次脳機能障
害評価

担当者CC
(Dr,リハ,CP,SW)

フィードバック
(本人・家族)

外出手段の
訓練・評価

担当者CC
(Dr,リハ,CP,SW)

フィードバック
(本人・家族)

単独利用

単独外出



公共交通機関利用の評価

- 準備行動
金銭の用意、服装の用意や整容
- 移動動作
- 買物動作
- 適応能力
方向感覚、状況判断や応用性、疲労や不安の管理
マナーの心得、他者への援助依頼、トイレの使用等

高次脳機能を総動員する必要がある。

退院後に通院・買物・通学・通勤など外出が必要な場合、対象者に同行して評価・訓練を行い、問題点を抽出し、今後の訓練や介助が必要かを判断する。

まとめ

- ◆社会参加や自己実現のためには、移動能力を評価・訓練し、代償手段の獲得と環境調整が必要である。
- ◆現状の移動支援サービスには制約が多く、対象者の生活範囲は受障前と比較し狭小化することが多い。地域の交通事情に合わせた支援が必要である。

【課題】

まだまだ必要な啓発活動

- ◆医療機関における移動手段獲得に向けた評価・訓練の必要性の啓発
- ◆自立支援協議会等への移動支援サービスの充実の提案
- ◆関係機関等への協力要請の継続